

中長期の方向性の検討

中長期的な目標として、「地域と連携した学びを通じた将来、市に貢献しようとする人材の育成」と定めた。戦略会議は今年度で一旦協議を終えるが、次年度以降の高校と地域の連携の内容を計画書に取りまとめていく。

①学力の向上

【2023 年度の実績・成果等】

○吉田高校

- ・スタディサプリ→冬休みの課題に活用
- ・「情報」の授業で活用していく予定（2024 年 2 月頃）

○向原高校

- ・桜窓塾の実施（2023 年 9 月～）
- 同窓会員の協力による無料塾（進学対策から基礎学力補助等の個別の指導）
- ・スタディサプリ 1 学年で視聴時間・確認テスト数は上昇するも、学校全体で利用率が下降傾向。
- ・授業での活用や学力向上に向けた改善対策等の協議、活用推進のための PT を立ち上げて協議中。

○両高校共通

- ・両高校全校生徒へのスタディサプリ導入（2023 年度導入・2024 年度予算要求済）

【これまでの会議で出た主な意見】

- ・公営塾があると高校職員の働き方に、学校現場としては大きく繋がる
- ・安芸高田市にいながら、大都市と同じ塾講師から学べれば、地域的なマイナスイメージを払拭できる
- ・生徒のどの層をターゲットにするかによって、参加人数が限定的になってしまう。公費ですめるのであれば、しっかり議論をしておかないといけないと思う
- ・大手のオンラインコンテンツがあるところで、生徒も学校がセレクトし、受講したらと思う
- ・受講に対しては、市の補助が全額でなく、半額、4 分の 3 と、受講者がお金を出す方が良い
- ・オンラインだと好きなきに受けられるので、家でも受けられるので、効率的な利用になると思う
- ・何らかの形で高校生の進学を市がサポートしますよという PR をすることは、いいことだろうと思う

②高校生自身が高校の魅力化を検討

【2023 年度の実績・成果等】

○吉田高校

- ・サンフレッチェ広島スponsoredゲームにおいて、ハーフタイムラウンド、場内放送、お祭り広場でのブース出展を通して、吉田高校の PR を実施。
- ・生徒会長に使い道を検討してもらい補助金の整備
- ・高校への魅力向上支援事業補助金（100 万円）

○向原高校

- ・同窓会員の協力による無料塾（英語・英会話・数学）
- ・安芸高田市国際交流協会と連携した国際交流、多文化共生活動
- ・企業連携による実践的なスキル育成講座（2024 年 4 月～）
- ・下宿の整備（2024 年 4 月～）
- ・米粉を活用した商品化のプロジェクト
- ・SDGs を踏まえたガーデニングの取組
- ・生徒会長に使い道を検討してもらい補助金の整備
- ・高校への魅力向上支援事業補助金（100 万円）

【これまでの会議で出た主な意見】

○吉田高校

- ・吉田高校のユースの選手が、地域の子供たちにサッカーを教えるような機会があっても良いのではないか
- ・サンフレッチェユースの選手がいる、ユースの選手と一緒に学校生活ができるという魅力を打ち出す
- ・スponsoredゲームの際、吉高生も早めに行って、試合の裏方の仕事をユース生と一緒に体験させてもらうことを企画していた
- ・観戦だけでなく、スタジアム周辺でのブースも含めて、いろんな繋がり方、イベントの打ち出し方はある

○向原高校

- ・外国の方との交流、文化に触れる体験活動が向原高校でできないか
- ・英語塾は、英語を活用していく力をつけるイメージ
- ・学校の授業で英語とは別に、希望者が放課後に集まって、英語活用のスキルを高めていくといったものがないだろうか
- ・英語塾というより、英語活用塾とか、英会話塾といったイメージの方が、実用的
- ・英語が学べるだけでなく、グローバル視点を学んで、外に出られる人材の育成につなげてもらいたい
- ・向原高校が、SDGs を積極的にやられているところは引き継いで、この地域の中の課題が世界とも結びついているし、自分も繋がっていると思えるような講座にできるかと思った
- ・生徒募集の時に、正規の授業は別に、授業が終わった後に英会話、グローバルが学べる授業があって、こんな講師がいて、講座を 1 年間とったら、こんな力が身につくといったことを、うち出せたら良いと思う

○両高校共通（補助金について）

- ・海外交流の費用補助で留学とか、修学旅行でも、行程のプログラムの中に生徒の能力養成を入れ込んで、費用を一部補助というような組み立て方もあると思う
- ・高校にトータルで補助して、高校生にアピールしていくといった考え方もできると思う
- ・「私の高校・地域の魅力発信アイデアコンテスト」など例えば講師を呼んで勉強会・研修会をしてアイデアを出して具体化させていくような事ができないか

③学校が希望する地域連携の学びのサポート

【2023 年度の実績・成果等】

○コーディネーター人材

- ・2024 年度任用安芸高田市地域おこし協力隊に、高校魅力化推進チャレンジを募集。
内容：両高校が行う地域連携の取組の窓口役をしてもらい、地域の高校の価値を高めていくミッション。各々の高校を拠点として、地域と学校と高校生の橋渡し役になり教育現場で力を発揮したい方を募集。

○中・高校連携

①吉田高校

- ・バスケ・卓球・テニス部と学期に1～2回合同練習を開催予定。
- ・教員同士の交流（少人数での生徒指導研修などを行い、本音で協議ができる場の設定）
- ・吉田高校教員による探求科の説明（対象は吉田中学校教員）
- ・吉田高校の出前授業で生徒同士の交流（生徒がファシリテートをする、中学校のPBLの授業でのアドバイスをする）

②向原高校

- ・卓球部の合同練習を開催予定。
- ・教員同士の研修交流（授業の空き時間に互いの授業を見合い交流）
- ・異文化体験交流（地域で外国籍の方が行う農業に、向原高校・向原中学校の希望生徒を募って体験活動を合同で行う）

③両高校共通

- ・高校が開催するイベントや行事の広報を高校側は大々的に行い、中学校側は積極的に参加できるように呼び掛ける。

○下宿・移動手段

- ・下宿を2024年4月から実施（向原町内3家庭4部屋、甲田町内1家庭1部屋）
- ・土日における異文化交流、農業体験の整備

【これまでの会議で出た主な意見】

○コーディネーター人材

- ・高校側のニーズを拾って、多様な企画、講座、イベントの企画をする
- ・高校生の地域での活動をする場所のセッティング
- ・地域から高校、高校生にやって欲しいことがある場合は整理し、高校が何か地域にできることを形にしていく
- ・外部の方と高校職員の間に入り、校内の思いをつなぐ
- ・高校職員では思いつかないアイデアを出して実現させる
- ・高校生と議論をして、高校生のニーズを拾っていく
- ・英会話というテーマを絞った中でのコーディネーター役であれば、継続的にお願いしたいし非常に学校としてはありがたい
- ・学校と地域をつなぐコーディネーターとして、市の職員が学校へ入っている事例が県内もある。

○中・高校連携

- ・臨時的任用や非常勤講師の候補者リストを共有できると人材確保につながるのではないかと
- ・部活動の連携の意義として、中学生からかっこいい先輩がモデルとなるようなイメージがつくような取組になってほしい
- ・中学校の教員が高校のことを知ってもらうことも必要ではないか。

○下宿・移動手段

- ・下宿先を確保にめどが立ち、通常では向原高校には来ないような中学校にも説明に回った

が、その印象として、JR 芸備線が廃線になる不安の意識は強かった

- 移動手段は基礎体力の部分で、基礎体力がないと生徒は集まらない
- 芸備線の存続、公共交通体系の中でバスの増便が、どうして必要なんだっていうことは、この委員会としてもきちっとお伝えしていきたい
- 下宿では差別化、セグメントって特色化を打ち出すためにその下宿先で、こういう体験ができというメニューがつくれたらと思う
- テーマ性を設けた下宿先を確保することによって、そこにも興味を持たせるとともに学校活動と連携させていけたらと思う